

# 単元（題材）及び授業構想のポイント

## 令和5年度 授業改善のポイント

- (1) 各教科等において目指す資質・能力を育むために、授業者による授業改善の視点と学習者（児童生徒）における学びの改善の視点を往還させながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- (2) 「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」であり、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現しているかどうかについて、児童生徒を主語とした授業改善の視点をもつ。

### 資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業者による授業改善の視点と学習者における学びの改善の視点が往還することが「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。

『授業者』における授業の改善

主体的・対話的で深い学びの実現

『学習者』における学びの改善

資質・能力の獲得  
生きる力の育成

授業改善を考える上で、学習評価は大切な要素です。

- ・児童生徒の姿から「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現状況を把握し、一体として改善・充実が図られるようにします。
- ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行います。

※三つの柱のバランスのとれた育成を目指す。

**資質・能力の三つの柱**

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等

単元（題材）の目標      1 単位時間のねらい

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らのねらいに応じて、授業での児童生徒の学びを振り返り、児童生徒の学びや教師による指導の改善に生かしていくことが大切です。

<児童生徒を主語とした授業改善の視点>

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶことに興味や関心をもつ</li> <li>○自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えをもった上で話し合う</li> <li>○他者との協働や対話、先哲の考えに触れることにより、自己の考えを広げ深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識を相互に関連付けてより深く理解する</li> <li>○情報を精査して考えを形成する</li> <li>○問題を見いだして解決策を考える</li> <li>○思いや考えを基に創造することに向かっている</li> </ul>

「見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげるのが重要です。

**見方・考え方を働かせる**

**見方・考え方**      「深い学び」の鍵

各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

→教師が「見方・考え方」を明確にするとともに、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて学ぶような授業デザインを考えることが大切です。